



これからの季節、大雨や台風等による水害が心配されます。水害から身を守るには、いざという時に備えて、日頃から準備しておくことが大切です。梅雨前線、台風の到来などで水害が予想される場合は、まず情報収集が大切です。ラジオ、テレビやインターネットなどを通じて、台風や大雨に関する気象情報を入手し、その動向に注意しましょう。

集中豪雨(ゲリラ豪雨)は、短時間のうちに地域に集中して降る豪雨のことです。梅雨の終わりから夏ごろによく見られ、狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難です。中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地などでは気象情報に十分注意し、万全の対策をとるようにしましょう。

1時間の雨量と降り方

1時間の雨量	予報用語	雨の降り方等
10~20ミリ	やや強い雨	ザーザーと降る。雨の降る音が聞こえる。
20~30ミリ	強い雨	どしゃ降り。側溝や下水がたちまちあふれる。
30~50ミリ	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。危険地帯では避難の準備をはじめ。
50~80ミリ	非常に激しい雨	滝のように降る。土石流が起こりやすい。
80ミリ以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。嚴重な警戒が必要。

水難事故を防ぐ

プールや海水浴場がにぎわう季節を迎えます。そこで気をつけたいのが子どもの水の事故です。家の浴槽でもプールでも、多くの事故は大人がちょっと目を離したすきに起こっています。

家の中の水の事故

子どもは鼻と口が隠れるだけの水(10cm程度の深さ)で溺れます。事故を防ぐために家庭でできることは、

- ・浴槽やバケツ、洗面器にはお湯や水を溜めておかない。
- ・浴室のドアに鍵を掛けるなどして入れないようにする。

子どもは予測できない行動をとることがありますので、目を離したときでも事故の心配がない環境づくりをしておくことが重要です。

池や川、プールでの水の事故

子どもが成長し、活動範囲が広がると、池や川、プールなどでの水の事故に対する注意が必要になります。

- ・子どもだけで魚釣りや、水遊びに行かせない。
- ・日頃から水の怖さや危険な場所について、子どもに教えておく。
- ・船、ボートなどに乗るときは、必ずライフジャケットを着用させる。
- ・危険な場所で遊んでいる子どもを見かけたら声をかけて注意する。

保護者はもちろん地域全体で子どもを水の事故から守りましょう。



消防潜水隊

当市消防本部では、潜水士の国家資格を持つ8人の隊員により、潜水隊を編成しています。ひたちなか市の海洋高校のプール(水深10m)や、那珂川・久慈川において定期的に訓練を実施し、水難事故に対応しています。

